

令和3年度 さいたま市立土屋中学校 自己評価書

校長 田村浩司 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

学校教育目標：「夢に向かって」～自分の将来に夢や希望をもって生活できる生徒の育成～

重点目標：『真の学力』の育成を目指した指導の工夫・改善

(1) 学習指導

- ・授業における基礎学力向上 ・ICT等の環境整備とその活用  
ー生徒「よい授業」質問紙調査、保護者アンケート、校内研修等

(2) 生徒指導

- ・生活の基礎・基本の定着 ・自己肯定感を高める学校行事の実施と工夫
- ・いじめの防止等、高い危機管理意識をもった教職員の指導 ・あいさつの励行とボランティア活動の充実 ー生徒・保護者・地域アンケート、教職員自己評価

2 評価結果について

(1) 学習指導

- ・生徒「よい授業」質問紙調査では、4因子のうち3因子で市平均を上回っており（1因子は同ポイント）、「②基礎アップ」では+0.3ポイントという結果で、基礎学力の定着に向けた授業改善が進められている。保護者アンケート「子どもたちに分かりやすく、工夫した授業が行われている。」の項目では、肯定的な回答が60%（昨年度57.7%）である。本年度、文部科学省の山田誠志教科調査官にご指導いただいた研修内容について、今後はさらに深め、生徒一人ひとりの状況に対応した分かりやすい授業づくりを進めるなど、授業改善に努めたい。
- ・ICT等の環境整備とその活用については、市教委による指導訪問、校内研修を行い、教職員はスキルの向上に努め、生徒「よい授業」質問紙調査「先生がテレビやパソコンなどの機器を使って授業をしてくれる」の項目では、市平均を上回った。

(2) 生徒指導

- ・生徒アンケートでは、肯定的な回答が多い項目として「先生は生徒の相談にのってくれる」で97.3%（昨年度97.1%）、「土屋中で生活するのが楽しい」で95.9%（昨年度95.5%）、「わたしは、清掃や新型コロナウイルス感染症対策によく取り組んでいる」で96.4%（昨年度95.5%）などが挙げられる。一方、「生徒にとって魅力的な学校行事が実施されている」で94.2%（昨年度96.5%）と学校行事にかかわる項目で数値の減少が見られた。保護者アンケートについても同様の傾向が見られ、学校行事の実施方法の工夫等が必要である。あいさつの励行については、土屋中のよき伝統として生徒の自発的な行動を促したい。
- ・地域アンケートでは、「土屋中は事故防止に向けて生徒たちの安全に配慮している」で肯定的な回答が100%（昨年度96.1%）となったが、成長を促す学校行事の実施や校舎内外の清掃や整頓が課題となった。一方、グリーンボランティアを募集し、昼休みに校内を除草するなど、美化活動に多くの生徒が自主的に参加し、環境美化を進めた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

次年度は、グローバル・スタディ科研究発表を見据え、各教科で1人1台タブレット端末をさらに効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学習指導の改善に取り組む。また、コミ・スク準備委員会で本校の生徒に身に付けさせたい力についての議論で挙げられた「やり抜く力」や「自己肯定感」をはぐくむため、生徒が主体的に取り組み、達成感を味わえる学校行事等の実施を進めていきたい。